

## 役人(公務員)は事務職ではありません



### 5210名の職種

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 事務系 (一般事務・社会教育<br>土木・建築・電気等) | 2731名 |
| 福祉系 (保育士・児童指導等)              | 1204名 |
| 医療系 (栄養士・保健師<br>看護師等)        | 179名  |
| 幼稚園教諭等                       | 47名   |
| 技能系 (オモテ面参照)                 | 1049名 |
| 合計                           | 5210名 |

■世田谷区役所の職員数は現在5210名(平成20年4月1日基準) ■ともすれば全員がデスクワークのように考えがちですが、実際のデスクワークは2731名です ■1204名は保育園や児童館で働いている福祉系 ■179名が栄養士・保健師・看護師等の医療系 ■47名

は区立幼稚園等で働いています ■その他にも技能系が1049名(オモテ面に内訳記載) ■これらの合計で5210名ということです ■大まかに言えば、区の職員の半分は“現場サービス系”ということ。また係長と管理職はほぼ事務系に属しますので事務系の3人に1人が係長以上ということになります(オモテ面参照、係長883名、課長110名、部長45名計1038名) ■これに本来なら区立小中学校の教諭が位置づけられるはずですが、彼らは東京都の職員です。

## 区の人件費540億円 予算総額2417億 知っていますか?



### 退職金平均1人2000万 最高3200万

| 人件費540億円の内訳 |       |
|-------------|-------|
| 職員給料        | 416億円 |
| 退職金         | 46億円  |
| 残業代         | 11億円  |
| 議員報酬        | 6億円   |
| 非常勤賃金       | 45億円  |
| 臨時職員賃金      | 15億円  |
| その他         | 1億円   |
| 合計          | 540億円 |

■給料は基本給のこと、それに諸手当・残業代が付いたものが給与 ■(定年)退職金は1人当たり2000万平均で、最高ランクは3200万円 ■議員報酬は23区の中で人口比からいえば最も低い(オモテ面の財調依存度の表参照。さらに議員定数の削減に頑張ります) ■この人件費の内訳を見てわかる通り、世田谷区では5210名の正規公務員だけが働いているわけではありません ■非常勤、臨時職員の人件費として60億円が使われているのです(新年度予算ベース)

## 誰も知らない“公務”の非正規雇用の実態

### 非常勤職員の主な職種

|             |       |
|-------------|-------|
| 再雇用職員(法定雇用) | 175名  |
| 一般非常勤職員     | 1818名 |
| 事務嘱託員       | 256名  |
| 新BOP指導員     | 295名  |
| 保育業務員       | 175名  |
| 出張所嘱託員      | 139名  |
| 図書館嘱託員      | 169名  |
| 学校業務嘱託員     | 88名   |
| 学校警備嘱託員     | 79名   |
| 代替・病後児保育員   | 86名   |
| 延長保育員       | 51名   |
| 介護保険認定調査員   | 31名   |
| スクールカウンセラー  | 32名   |
| 学校給食栄養管理嘱託員 | 25名   |
| 心理教育相談員     | 31名   |
| その他         | 361名  |
| 合計          | 1993名 |

総額32億円が支払われる ↓

■今年度、非常勤職員は1993名、総額32億円支払われます(1人平均161万円) ■その内訳はまず再雇用職員(事実上法律で決められている。厳密な意味では天下りではない) ■そして一般採用としては1818名、その職種は左表の通り、多岐に渡っています ■世田谷区は上述したように正規職員5210名、その分の人件費は473億円(給料+退職金+残業代) ■非常勤の職種を見ると、そのほとんどが正規職員で言えば“現場サービス系”にあたります ■正規職員1人で数名の非常勤が雇えます ■しかも多くの現場で、正規より非常勤の方が良く働くという声を耳にします ■このほかにも臨時職員(アルバイト)を実人員(延べ人数ではなく)何と5634名雇っています。アルバイト代しめて14億円です!

## 職員数削減のカラクリ

退職不補充の現実 若手採用を犠牲にしてきた10年

### 現在と10年前の世代別職員数

|         | 平成20年  | 平成10年  |
|---------|--------|--------|
| 20歳~29歳 | 540名   | 1,126名 |
| 30歳~39歳 | 1,271名 | 1,641名 |
| 40歳~49歳 | 1,708名 | 1,877名 |
| 50歳~59歳 | 1,686名 | 1,198名 |

5,205名 ← 5,842名

■世田谷区では行革の一環として職員定数の削減を実施してきました ■それは主に技能系の職種(オモテ面参照)を中心として退職不補充、つまりその職種について退職者の穴埋めに新規採用はしない、ということで、事実上その職種の廃止ということでした ■また必要なものについては、民間活力を使って補充する、ということですが ■しかし実態はどうなっているのでしょうか ■上の表は平成10年と平成20年の4月1日付の職員数を20代、30代、40代、50代に分けて在職者数を出したものです ■途中で人数が増えるのは清掃移管等の改正によるものです。

※平成20年の職員数は5210名ですが表記が5205名となっているのは比較の都合で20歳未満の4名、60歳以上1名を除いているため。

### 定数削減は採用抑制

■上記表を見ての通り、この10年間で職員数は5842名から5205名へと637名減っています ■約1割の減少です(実際には上述したように清掃移管等の制度変更があったので正確な比較にはなりません) ■ところが世代別で見ると、驚いたことに現在の20代が、それまでの30代、40代、50代に比べて極端に少ないことがわかります ■50代世代に比べ3分の1にも足りません ■実は議会には職員定数を減らしたという報告と人件費抑制の報告はありますが、今後の世田谷区役所の運営をどうするかという報告はありません ■信じられないことですがどうも実態は何も考えていなかったということ ■こんな場当たり的なことでいいのでしょうか ■20年後とか30年後のことなど今の管理職にはわからない、とうそぶく管理職が公務員の姿です ■どこか社会保険庁の体質と共通しているようで危険なことです。

### あともぎ

●他人のコトをあげつらって、議員の年収はどうなんだと疑問に思われるかも知れません ●私の議員報酬は平成20年分で1070万4057円です ●ヒラ議員ですから、委員長等の役職の議員は20代の議員でも年額で数十万円プラスとなります ●今回は国の公務員制度改革ということもあって、世田谷区の公務員の見えない部分について調べて見ました ●世田谷区では1年間に1993名の非常勤職員を雇い、5634名(延べではなく実人員)のアルバイトを雇っていることなど初めてわかったことです。その費用に60億も使われています ●これなどマクドナルドもびっくりの“企業”ということになります ●しかもその8倍の給与、473億円を5210名の正規職員で分け合っているというのが世田谷区の実情です ●今後、大不況が到来すれば区役所の体質も変わらざるを得ません ●区民の税金以上の人件費は払えないからです。今回は以前のアンケートで区の財政や公務員の給与についてご要望が多かったこともあり、出来る限り調べてみました ●毎回字が小さすぎるとご不便おかけしておりますが密度の高い紙面に努めておりますので



御容赦のほどを。

(区議会議員 おおば正明)